

師走に入りました。寒さが増してきておりますが、皆様にはご健勝のことと拝察申し上げます。二学期もいよいよ締めくくりの時期を迎えておりますが、学校での子ども達の様子を見ていますと、各学年の子ども達が逞しく成長している様子に驚かされます。

先日、こんなことがありました。いつものように私が校門前の横断歩道に立ち、八時近くになり、そろそろ舎内に戻ろうかという頃、2年生のA君が私の傍に寄って来て、「玄関まで一緒に競争しよう」と言いました。どちらかというと、その時までは、「おはよう」と言っても、頷いているような気はするのですが、はっきりとした返事が返ってこなかったお子さんでした。まずは形だけでも挨拶はできるといいなあと思いつつも、余り強制的に挨拶の返事を求めるものでもないと考え、四月から気長に子ども達には「おはよう」の声をかけて接してきました。「一緒に競争しよう」の声に、私は思わずうれしくなり、声も心も明るくはずんで、「よし、競争だ!」と、A君に負けないように早足で玄関まで歩いていきました。でも、それで終わりではありませんでした。私が教室を回っているのを知っていてか、昇降口から教室まで競争しようと言うのでした。そのようなことが数日続きました。たったそれだけのことなのですが、A君が自分から私に声をかけてくれるようになったことが、私の目にはとっても大きな成長として映りました。

朝廊下を歩いてまわっていると、この寒さの中を半袖一枚で遊んでいる子もいます。でも明るく仲良く遊んでいるのを見ているとほっとします。子どもは風の子、元気な子とは言われておりますが、「すげー」と思わず口走ってしまいます。

11月17日まで仲良し旬間があり、友達同士が仲良く過ごせることに重点を置いて、学級で指導していただいたり、講演会でのお話を聞かせたりして、人を大切にすることについて考えてきました。校長講話でも、「みんなが心の救急隊員になれるように」と話しました。各ご家庭でも、我が子が他の友達に対してどのように接しているのか、アンテナを高くして知っていただき、更に友達を思いやった言動がとれるように指導していただけると幸いです。

さて、私ごとで恐縮でありますが、私は、現在、小学校時代の同級会を計画しております。 卒業年の夏に学校に集まって同級会をしたきり、45年間もの長きに渡って何もやっていなかったので、担任が健在のうちに同級会ができればと思い、同級会名簿の整理をしたり、連絡を取り合ったりしています。電話で話していると、思わず昔のことに話がはずんでしまいます。 不思議なもので、何をどのように学んできたかについては全く思い出せないのですが、いたずらをして叱られたり、友達と楽しく遊んだりした思い出だけは鮮明に心の中に残っています。 学級の壁新聞を作るといって、我が家に七、八人が押しかけて、ワイワイ、ガヤガヤしながら、 模造紙に記事を書き込んでいたことも昨日のことのように思い出されます。また、40年近く 会っていなかった友達でも、しっかり私の名前を覚えていてくれて、この年になっても「徹ち ゃん」と呼んでくれます。もう忘れ去られているに違いないと思って電話した相手が、名前や声まで覚えていてくれるとは実にうれしいものです。私は今回、同級会の取りまとめを物好きでやっているのですが、家に帰ってからのこととはいえ、通信事務や会場の予約など考えると、最初はちょっと大変かと思いました。しかし、再会できることを友達が喜んでくれているのが伝わってくると、請け負ってよかったなあと思うのです。そして、目先を自分のことから学校に移して、本校で学校生活をおくっている子ども達が、卒業後も楽しく小学校の頃の思い出を語り合えるように、一人ひとりの子ども達が現在どのような思いで過ごしているのかについて、一層心を配っていかなくてはならないと自らの責任の重さを痛感するのであります。

さて、最近 更北中学校と須坂の豊洲小学校での授業研究会に参加する機会を得ました。お 隣の更北中学校での英語の授業研究会には、昔NHKラジオ英会話の講師をやられていた東後 勝明先生が講師としておいでになりました。若いころ、東後先生の魅力的な声と流ちょうな英 語に魅せられ、NHKのラジオ講座を毎日聞き続けた私でしたので、直にお会いできるのを楽 しみにしながら参加しました。豊洲小学校では、5年の英語活動の授業を参観してきました。 えいごりあんの番組の制作に携わっていらっしゃるイギリス人の先生の講演に耳を傾けてきま したが、多くのことを学べました。

小学校に週1時間の外国語活動が導入されるということで、小学校のうちから、英会話でも 習わせないといけないのかと思われる方も少なからずいらっしゃることでしょう。その是非に ついてはご家庭の判断にお任せするところですが、個人的には、適期英語教育は考えられても、 幼少のうちからの早期英語教育は慎重に進める必要があると感じています。

我が家には4人の子どもがいましたが、小学校のうちは親として英語には一切触れませんでした。そのためでしょうか、子ども達は中学校に入学してから、初めて接した英語の学習にとっても新鮮な前向きな気持ちで向かって行きました。私自身はというと、小学校6年の後半から英語に興味を持ち始め、「ウインドウ」、「テーブル」などといった身近なカタカナ英語を書き集めては一人で楽しんでいました。ローマ字すら苦手な私でしたので、アルファベットの文字には全く手をつけませんでした。中学校に入ってからは、教科担任の勧めで毎日欠かさずNHKの基礎英語や続基礎英語を聞きました。その習慣からか、大人になってもラジオの英会話を聞き続けることができて、それなりに力はついたかなと思っています。今でも、朝夕の通勤時は車の中では英語を聞いたり、家ではインターネットで英語ニュースを読んだりしています。

話は「外国語活動」に戻りますが、小学校の学習指導要領(文科省)の第四章(P107)で、外国語活動の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことと記されています。また、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにすることとあります。

現在、下氷鉋小学校では、上記の目標を踏まえ、英語活動の指導をどのように進めていくか検討中であります。単に、「聞く」「話す」「読む」「書く」ことのスキル(技能)の習得を目指すのではなく、身近な英語に触れさせる中で、「片言でも自分の考えや思いを少しでも伝えたい」という願いや、「英語を聞いて何となく分かった」「英語で相手に通じたみたい」という満足感や喜びを味わわせることができればと願っております。そして、小学校での「英語活動」が中学校での「英語」へのよい橋渡しとなれば幸いと願っております。

